

大沼保昭先生 略歴・業績

1946年3月8日山形県山形市生まれ。1970年東京大学法学部卒業。

〈研究分野〉

主に国際法。この他、国際政治学、思想史、比較文明研究なども研究。
特に国際法・国際関係思想史、国際法の基礎理論、国際法と国際政治、人権、安全保障、日本の戦争責任と戦後責任、文化・文明と国際法、社会における法・政治・文化などが主要研究分野である。

〈職歴〉

東京大学法学部助手	1970年4月～1973年10月
東京大学法学部助教授	1973年11月～1984年6月
東京大学法学部教授	1984年7月～1991年3月
東京大学大学院法学政治学研究科教授	1991年4月～2009年3月
明治大学法学部特任教授	2009年4月～2016年3月

〈在外客員教授・講師・研究員歴〉

ハーバード大学・プリンストン大学・マックスプランク国際刑法研究所・シドニー大学・ミシガン大学・オーストラリア国立大学・エディンバラ大学・イエール大学・コロンビア大学・国際高等研究学院（ジュネーヴ）・パリ第一大学・ケンブリッジ大学・北京大学・清華大学・ジャワハラル・ネルー大学・ジョージタウン大学

〈学会・社会活動（市民運動）〉

1970年代 日本での戦争責任・戦後責任に関して研究を進めながら、サハリン残留朝鮮人の韓国への帰還運動、在日韓国・朝鮮人の法的・社会的地位の改善運動、「慰安婦」問題の解決のための運動（アジア女性基金の設立とその一員としての活動など）に携わる

- 1983年 田中宏、内海愛子氏などと「アジアに対する戦後責任を考える会」を設立し、代表を務めた
- 1990年 日本国憲法に関する論議について護憲的改憲論を提唱
- 1991年 安藤忠雄、緒方貞子、司馬遼太郎氏などととも朝日新聞の21世紀委員会 のメンバーに
- 2007年 アジア国際法学会の設立・運営にかかわり、同副理事長、同日本協会の理事長を歴任
- 2017年 橋本五郎・読売新聞特別編集委員とともに学者とジャーナリストがともに学び合う場「知の共同体」設立

〈受賞歴〉

- 1975年 第8回安達峰一郎記念賞
- 1987年 第8回石橋湛山賞
- 1999年 韓国政府より修交勲章興仁章
- 2002年 カリフォルニア大学（バークレー校）ロースクールより第2回リーゼンフェルト賞
- 2017年 第6回日本平和学会平和賞

〈ご著作・論文〉

I 主要著書（編著書を含む）

1. 『戦争責任論序説』（東京大学出版会、1975年）
2. （共編著）『国際法学の再構築』上・下（東京大学出版会、1977年）
3. （共編著）『東京裁判を問う』（講談社、1984年；講談社学術文庫、1989年）
4. 『東京裁判から戦後責任の思想へ』（有信堂、1985年；第4版、東信堂、1997年）
5. 『ドリアンの国、ロームシャの影』（リプロポート、1985年）
6. 『単一族社会の神話を超えて』（東信堂、1986年；新版、1993年；韓国語版、1993年）
7. （共編著）『在日韓国・朝鮮人と人権』（有斐閣、1986年；新版、2005年）

8. (eds.) *The Tokyo War Crimes Trial: An International Symposium* (Kodansha International, Tokyo, 1986)
9. (編著) 『戦争と平和の法』 (東信堂、1987年；補正版、東信堂、1995年)
10. (編著) 『国際法、国際連合と日本』 (弘文堂、1987年；韓国語版、1997年)
11. 『倭国と極東のあいだ』 (中央公論社、1988年)
12. 『サハリン棄民』 (中央公論社、1992年；韓国語版、1993年)
13. (ed.) *A Normative Approach to War: Peace, War, and Justice in Hugo Grotius* (Clarendon Press, Oxford, 1993)
14. (編著) 『資料で読み解く国際法』 上・下 (東信堂、1996年；改訂版、2002年)
15. 『人権、国家、文明』 (筑摩書房、1998年；中国語版2003年)
16. (共編著) 『「慰安婦」問題とアジア女性基金』 (東信堂、1998年；韓国語版、2001年)
17. (編著) 『東亜の構想』 (筑摩書房、2000年)
18. (共同編集代表) 『国際条約集』 (有斐閣、2000年)
19. 『在日韓国・朝鮮人の国籍と人権』 (東信堂、2004年)
20. (編集代表) 『国際条約集』 (有斐閣、2004年)
21. 『国際法』 (東信堂、2005年；補正版、2008年)
22. 『東京裁判、戦争責任、戦後責任』 (東信堂、2007年；中国語版、2009年)
23. 『「慰安婦」問題とは何だったのか』 (中央公論新社、2007年；韓国語版、2008年)
24. (共編著) 『慰安婦問題という問い』 (勁草書房、2007年)
25. (編著) 『国際社会における法と力』 (日本評論社、2008年)
26. *A Transcivilizational Perspective on International Law* (Martinus Nijhoff Publishers, Leiden, Boston, 2010)
27. (編著) 『21世紀の国際法』 (日本評論社、2011年)
28. (共著) 『戦後責任』 (岩波書店、2014年)
29. 『「歴史認識」とは何か — 対立の構図を超えて』 (中央公論新社、2015年)

30. *Le droit international et le Japon: Une vision trans-civilisationnelle du monde* (Editions Pedone, Paris, 2016)
31. *Direito Internacional em Perspectiva Transcivilizacional* (Martinus Nijhoff, Leiden, Boston, 2017)
32. *International Law in a Transcivilizational World* (Cambridge University Press, London, 2017)
33. 『国際法』(筑摩書房、2018年)

II 主要論文 (研究ノート、叢説、資料解説を含む)

A 国際法・国際政治・国際関係論の基礎理論

1. “The Problem of Eurocentric Education in International Law (Remarks),” *Proceedings of the 75th Anniversary Convocation of the American Society of International Law, April 23–25, 1981* (1983)
2. “Between Natural Rights of Man and Fundamental Rights of States,” Neil MacCormick and Zenon Bankowski, eds., *Enlightenment, Rights and Revolution* (Aberdeen University Press, Aberdeen, 1989)
3. 「国際法学の国内モデル思考」 広部和也・田中忠編 『山本草二先生還暦記念論文集 国際法と国内法』(勁草書房、1991年)
4. 「国際社会における法と政治」 国際法学会編 『日本と国際法の100年』 第1巻 (三省堂、2001年)
5. “The ICJ: An Emperor Without Clothes?” N. Ando et al., eds., *Liber Amicorum Judge Shigeru Oda* (Kluwer Law International, The Hague, 2002)
6. 「『法の実現過程』という認識枠組み」 日本法社会学会編 『法の構築 (法社会学 第58号)』(有斐閣、2003年)
7. 「国際法における文際的視点」 日本国際連合学会編 『国際社会の新たな脅威と国連 (国連研究 第4号)』(国際書院、2003年)
8. “International Law in and with International Politics,” *European*

- Journal of International Law, XIV, no.1 (2003)
9. "A Transcivilizational Perspective on Global Legal Order in the Twenty-First Century," Ronald St. John Macdonald and Douglas M. Johnston, eds., *Towards World Constitutionalism* (Martinus Nijhoff Publishers, Leiden/Boston, 2005)
 10. "A Transcivilizational Perspective on Global Legal Order in the Twenty-First Century: A Way to Overcome West-centric and Judiciary-centric Deficits in International Legal Thoughts," *International Community Law Review*, vol.8, no.1 (2006)
 11. "Self-Determination and the Right of Self-Determination: An Overview from a Trans-Civilizational Perspective," Jörg Fisch, ed., *Die Verteilung der Welt* (R. Oldenbourg Verlag, München, 2011)
 12. "International Law and Power in the Multipolar and Multicivilizational World of the Twenty-first Century," Richard Falk et al, eds., *Legality and Legitimacy in Global Affairs* (Oxford University Press, New York, 2012)
 13. 『『保護する責任』と『保護される権利』』『世界法年報』第31号 (2012年)
 14. "Multi-Civilizational International Law in the Multi-Centric 21st Century World: Transformation of West-Centric to Global International Law as Seen from a Trans-civilizational Perspective," Pierre-Marie Dupuy and Vincent Chetail, eds., *The Roots of International Law* (Martinus Nijhoff Publishers, Leiden/Boston, 2014)
 15. "Reading the Book that Makes One a Scholar," *European Journal of International Law*, XXVIII, no.4 (2017)

B 人権・国籍・外国人問題

1. 「出入国管理法制の成立過程」寺沢一他編『国際法学の再構築』下（東京大学出版会、1978年）
2. 「〈資料と解説〉出入国管理法制の成立過程」（1）～（15・完）『法律時報』50巻4号（1977年）～51巻7号（1978年）
3. 「在日朝鮮人の法的地位に関する一考察」（1）～（6・完）『法学協会雑誌』96巻3号、5号、8号、97巻2号～4号（1979年～80年）
4. “Nationality and Territorial Change: In Search of the State of the Law,” *Yale Journal of World Public Order*, VIII, no.1（1981）
5. “Interplay Between Human Rights Activities and Legal Standards of Human Rights,” *Cornell International Law Journal*, XXV, no.3（1992）
6. 「人権は主権を超えるか」山本武彦他編『国際化と人権』（国際書院、1994年）
7. 「文際的人権を目指して」渡邊昭夫編『アジアの人権』（日本国際問題研究所、1997年）
8. “In Quest of Intercivilizational Human Rights,” D. Warner, ed., *Human Rights and Humanitarian Law* (Kluwer Law International, The Hague, 1997)
9. 「文際的人権論の構築に向けて」（1）（2）（3・完）『国家学会雑誌』第111巻3・4号、9・10号、11・12号（1998年）
10. “Towards an Intercivilizational Approach to Human Rights,” Joanne Bauer and Daniel Bell, eds., *The East Asian Challenge for Human Rights* (Cambridge University Press, Cambridge, 1999)
11. “Towards an Intercivilizational Approach to Human Rights,” *Asian Yearbook of International Law*, VII（2001）
12. 「人権の国内的保障と国際的保障」『国際人権』第17号（2006年）
13. 「多極化世界における人権」秋月弘子他編『人類の道しるべとしての国際法』（国際書院、2011年）

C 国際法史・国際関係史

1. 「『戦争と平和の法』の研究1〈はじめに〉」『法律時報』54巻11号(1982年)、同4〈戦争(一)〉同55巻2号(1983年)、同5〈戦争(二)〉同55巻3号(1983年)、同6〈戦争(三)〉同55巻4号(1983年)、同11〈合意(一)〉同55巻9号(1983年)、同12〈合意(二)〉同55巻10号(1983年)、同13〈合意(三)〉同55巻11号(1983年)、同23〈まとめ(一)〉同56巻11号(1984年)、同24(完)〈まとめ(二)〉同56巻12号(1984年)
2. “The Historical Change in International Legal Order,” Yong Sang Cho, ed., *Conflicts and Harmony in Modern Society* (Keimyung University Press, Taegu, 1985)
3. 「フーコー・グロティウスにおける『一般国際法』の観念」『国家学会百年記念 国家と市民』第2巻(有斐閣、1987年)
4. “When was the Law of International Society Born?,” *Journal of the History of International Law*, II, no.2 (2000)
5. 「国際法史再構成の試み」比較法史学会編『文明と法の衝突(比較法史研究 第9号)』(未来社、2001年)
6. “Una Prospettiva inter-civilta sul diritto internazionale,” Gustavo Gozzi and Giorgio Bongiovanni, eds., *Popli ecivilta - Per una storia e filosofia del diritto internazionale* (editrice il Mulino, Bologna, 2006)
7. “Hugo Grotius,” *Encyclopaedia Britannica* (2007)
8. “The Asian Society of International Law,” *Asian Journal of International Law*, I, no.1 (2011)

D 戦争犯罪・戦争責任

1. 「『平和に対する罪』の形成過程」(1)～(6・完)『国家学会雑誌』87巻3・4号、5・6号、7・8号
2. “Japanese War Guilt and Postwar Responsibilities of Japan,” *Berkeley Journal of International Law*, XX, no.3 (2002)

E 日本と国際法・国際関係に関するもの

1. “Japanese International Law’ in the Prewar Period,” Japanese Annual of International Law, no.29 (1986)
2. 「遙かなる人種平等の理想」大沼編『国際法，国際連合と日本』（弘文堂、1987年）
3. “Japanese International Law’ in the Postwar Period,” Japanese Annual of International Law, no.33 (1990)
4. “Japanese War Guilt, the ‘Peace Constitution,’ and Japan's Role in Global Peace and Security,” M. Young and Y.Iwasawa, eds., Trilateral Perspectives on International Legal Issues (Transnational Publishers, Irvington, NY,1996)
5. 「『平和憲法』と集団安全保障」(1) (2・完)『国際法外交雑誌』92巻1号、2号 (1993年)。